

心のこもった介護を目指して -「介護の日」イベントが開催-

地域住民とともに介護をこれからの課題として考えることを目的に、11月17日「介護の日」イベント（町地域包括支援センター主催）が開催されました。イベントでは「認知症でも大丈夫さー」をテーマに、認知症サポーター養成講座が開かれ、グループホームさわふじ管理者でケアマネジャーの仲宗根ルミ子さんが講演しました。自身が運営する施設での経験をもとに、認知症患者を介護する心構えなどを話した仲宗根さんは「認知症の方はもちろん、患者の家族など、介護する人の負担やストレスを分かち合えるよう、社会全体で見守ることが大切」と、認知症への理解と協力を呼びかけました。



介護予防体操を体験する参加者

発達障がい児童の保育向上を 目指し、講習会を開催

町内の保育士、幼稚園教諭を対象に、発達障がい児への支援の共通認識を深め、子どもたちの成長に繋げる事を目的として、11月19日に町中央公民館で講演会を開催しました。講演では講師の羽地知香さん(KBC学園非常勤講師)が、幼稚園教諭・保育士の立場や障がいを持つ子の母親として、実体験をもとに子どもの発達支援について話をしました。当日は町内外から100人余りの保育士、幼稚園教諭が参加。質疑応答では参加者から活発な意見が飛び交い、発達障がい児への支援についての理解を深めました。



町婦人連合会が「環境美化・ 食育・健康フェア」を開催

町婦人連合会(長崎信子会長)は、町内の婦人相互の連携と親睦を深め、婦人会活動の連携と強化を図ることを目的に、第2回環境美化・食育・健康フェアを11月20日、中央公民館で開催しました。同フェアは「ひろげよう！みんなでげんきなまちづくりを！」をテーマにし、各地区婦人会や親睦のある他の女性団体等が参加。持ち寄り加工品や手芸作品などを展示・販売していました。



まちの話題

日本一のチームが育まれた秘けつは何？ -興南高校野球部、我喜屋優監督の講演会を開催-

平成22年度西原町家庭教育学級合同講演会(町教育委員会・町PTA連合会主催)が11月23日、町中央公民館で行われ、興南高校野球部監督の我喜屋優さんを招いた講演会が開催されました。今年沖縄を沸かせた我喜屋さんの講演は、約400人が来場し、会場が埋め尽くされました。講演に先立ち、宮平響くん(西原小6年)が「興南高校から学んだこと」と題してお話発表をしました。宮平くんの堂々とした発表に、我喜屋さんが「うちのキャプテンよりスピーチがうまい」とコメント、会場は笑いに包まれました。講演で我喜屋さんは「できないと思ったらそれまで。チャレンジすること、工夫することが大切」と語り、「野球は9回で試合終了だが、子どもたちの人生はこれから始まる。高校を卒業して、社会に出ていく子どもたちの将来を考えて教えている」と教育にかける思いを披露しました。



沖縄戦の戦没者に祈りを捧げ、恒久平和を願う

「平成22年西原町戦没者追悼式」が11月11日、西原の塔で行われ、県内外から遺族や関係者約60人が参加しました。式では町遺族会の與那城博司会長をはじめ、戦時中、日本軍の一員として西原に配属され、多くの仲間を失った元隊員の代表者が出席。與那城会長は「戦争を知らない世代に、戦争のおろかさ、平和の大切さを正しく伝えなければならない」と、遺族へ追悼の言葉を述べました。また、坂田小・西原小・西原東小の児童が、学校のみんで折った千羽鶴を奉納。児童の一人は「(碑に刻まれた)犠牲者の数に驚いた。戦争は絶対にいやです」と感想を語りました。参加者は、西原町で犠牲になった戦没者の冥福を祈るとともに、恒久平和を願いました。

【動画】町HP「さわふじチャンネル」で公開中



中学生が英語のストーリー コンテストで語学力を発揮

国際化の進展に対応するための英語コミュニケーション能力の向上と英語に対する興味・関心と表現力と発表力を伸ばすことを目的に、中学生ストーリーコンテストが11月10日、町立図書館で開催されました。今年で12回目を迎える同コンテストには、西原中と西原東中から8名が出場。練習を重ねてきた英語力を生かし、外国人顔負けの発音や表現力でストーリーを展開しました。最優秀賞に輝いた西原東中2年のパーキンス理央くんは「感情をこめて演じることが難しかった」と、同じく最優秀賞の同中3年石川裕一くんは「コンテストまで猛練習してきた。自分でも上出来」と受賞の喜びを語りました。



最優秀賞のパーキンス理央くん(左)と石川裕一くん(右)

小那覇青年会が結成10周年、 青年まつりを開催

小那覇青年会(赤嶺孝成会長)が結成10周年を迎えるにあたり、地域貢献と発展を目指して11月7日、小那覇公民館広場で「小那覇青年まつり」を開催しました。当日は朝から雨が降り続くあいにくの天候でしたが、エイサーまつりが始まる午後5時ごろには天候が回復。小那覇の子ども会や青年会をはじめ、町内の各青年会がエイサーなど力強い演舞を披露しました。また、白血病を患い闘病中の青年会メンバー、津波博之さんの救済チャリティーバザーが同時に行われました。



町人材育成会へ寄附

(株)ネオブランニング(下地直樹代表取締役社長)は、町人材育成会へ人材育成基金として50万円を寄附しました。



寄附に訪れた西原強専務取締役

協働のまちづくりを目指して、 まちづくり懇談会を実施

町商工会と行政が町の課題や事業等について自由な意見を交換することで、協働のまちおこしを模索し、これからの地域振興施策とまちづくりに寄与することを目的に、11月16日「西原町まちづくり懇談会」が実施されました。この懇談会は町商工会の呼びかけで実現したもので、町からは町長をはじめ7名、商工会からは役員、理事ら16名が出席しました。会では、商工会からまちづくりに関する7つの提案を受け、町が現在進めているまちづくりの計画の経緯や方向性を説明。商工業の振興のみならず、まちづくりに関する幅広い意見交換がされ、商工会からは「要望だけでなく、ともに連携して取り組む姿勢が大切」と協働の姿勢を打ち出していました。



小学生がビーチバレーで熱戦展開

第3回西原町小・中学生ビーチバレー大会(町教育委員会主催)が11月6日、西原きらきらビーチで開催され、小学生4年生以下の部6チーム、5・6年生の部10チームが参加しました。4年生以下の部は決勝で西原クラブC(女子)が西原南クラブC(女子)に勝ち、5・6年生の部は西原東小A(男子)が西原クラブ(男子)に勝利。参加した子どもたちは、時折吹く海風に苦戦しながら、砂浜のコート上でボールを追いかけて、各コートで熱戦を繰り広げました。



高血圧、糖尿病を予防しよう！ -町食生活改善推進員が予防教室を開催-

町民が高血圧や糖尿病を学び予防することで、生活習慣病の対策を図ることを目指して、町食生活改善推進員協議会が「高血圧・糖尿病予防教室」を開催しました。同教室は11月に3回実施され、18日はいいあんべ家で「メタボリック症候群について」と題して新里修さん(しんざと内科院長)による講演が行われました。教室には31名が参加、高血圧や糖尿病について、正しい知識を学びました。

【動画】町HP「さわふじチャンネル」で公開中

